

(株)下東農産 代表取締役

由里 富美夫さん

明日へ向かって駆ける

農業法人の経営者は語る

「下東地区全体で合意して法人化し1年が経った。地域の農業を守り継承していくため、これからは地区のみんなと協力して農業経営・法人経営に取り組み」と話すのは、舞鶴市下東地区の株式会社「下東農産」代表取締役 由里富美夫さん(69)だ。

同地区は市西部の由良川右岸に位置し、豊かな土壌に恵まれた農業の盛んな地域。川沿いに広がる16畝の農地では、水稻を中心に栽培が行われている。

1998年に圃場整備が完了したことを機に、下東営農組合を結成。6畝あまりの農地を預かり、特別栽培米や酒造好適米の栽培、地元の名所「安寿姫塚」にちなん

地域支える力集める



▶ 水稻苗の田植えを終えた農地を背に思いを語る由里さん

だ「安寿そば」を作り、販売してきた。しかし、厳しい農業情勢を乗り切り、地域農業を支えていくには限界があると判断。JAや行政に相談し、法人化に向け準備委員会を立ち上げた。2015年に1年かけて検討を重ね、16年1月に42人の出資で同社を設立。由里さんは「将来を考え、柔軟に取り組める株式会社を選択した」と話す。

現在、営農組合で取り組んでいた特別栽培米や酒造好適米などに

加え、地域の女性を雇って「万願寺甘とう」のハウス栽培を始めた。「安寿そば」の販路拡大など、法人経営の基盤作りに取り組む。

「最近では下東地区以外からも、農地を預かってくれないかとの声を聞くようになり、農作業受託が増えてきた」と由里さんは話す。

同地域は由良川河畔にあるものの、その水は塩水と淡水が混ざる汽水のため活用ができず、農業用水の確保が課題だった。貯水池で賄っていたが、十分な量を確保で

きていなかった。16年に地域の農地面積の2割以上を集積した際に交付される地域集積協力金と、市からの補助金を活用。地下水をくみ上げ、用水として庄送するポンプ設備を整備し、用水が安定して確保できるようになった。

「今後ますます、預かる農地や作業受託が増える。これに対応するため、地域農業を支えてきた力を集め、地域一丸となって取り組みたい。将来にわたって地域農業を守り、より暮らしやすい地域をつくらせて行くことが目標だ」と由里さんは意欲的に語る。

■法人所在地 舞鶴市字下東560。(電)0773(82)0781(由里さん宅)。

■法人概要 2016年1月設立。取締役3人、監事1人、農繁期にパートタイマー25人。経営面積 8畝(特別栽培米4・8畝、酒造好適米「五百万石」・加工用米「京の輝き」2・6畝、もち米17畝、そば8畝)。「万願寺甘とう」ハウス1棟、農作業受託3・4畝。農機具 トラクター2台、田植え機2台、コンバイン1台、バックホー1台、運搬車1台、自走式草刈り機1台。